

分かりやすく、使いやすい介護の“ものさし” ICFステージング

旧「自立支援」(障害穴うめ型)

新「自立支援」(能力サポート型)

ICIDH(国際障害分類)

ICF(国際生活機能分類)

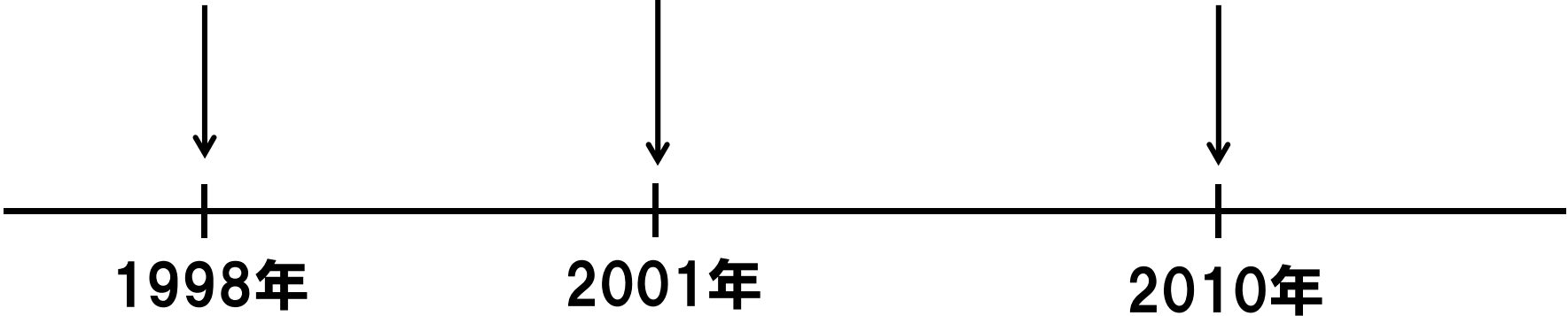
要介護認定基準公布

WHOより
ICF発表

全老健において
「ICFステージング」完成

[自立、見守り、一部介助、
全介助の考え方]

[何がどこまで可能で、
何をを行っているかという考え方]



ICF Stagingにより、
変化を鋭敏に捉えることが可能となる

要介護度(7段階)

ADL指標
(自立~C2)

認知症指標
(自立~M)

総合指標: 14項目と
BPSDの有無(数)

基本動作

歩行・移動

食事・嚥下

食事・動作

排泄

入浴

整容・口腔

整容・整容

整容・衣服

余暇

交流

認知・見当識

認知・コミュニケーション

認知・精神活動







認知・周辺症状

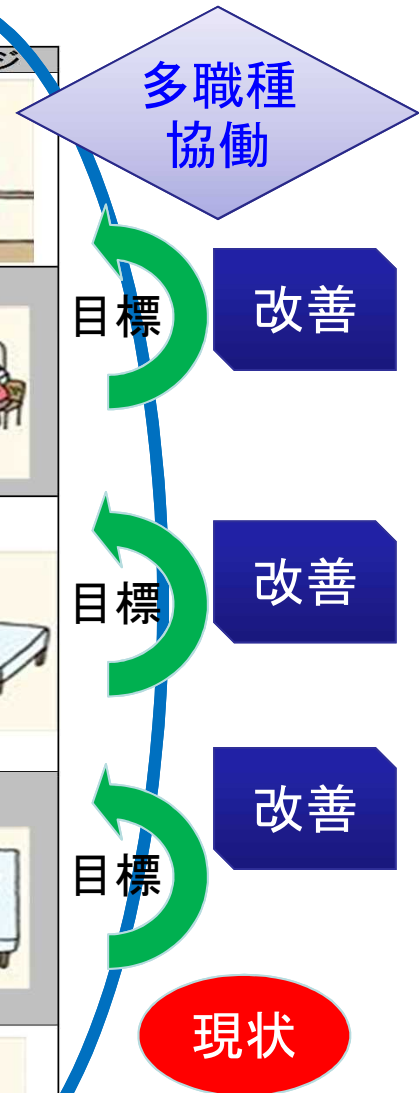
有・無

満点が70点

5つのレベル区分

基本動作

		ステージ	状態	状態のイメージ
		5	両足での立位の保持を行っている。	
立位の保持	つかまらずに一定の時間立位を保つこと。	行っている	↑	
		行っていない	↓	
		4	立位の保持は行っていないが、座位での乗り移りを行っている。	
座位での乗り移り	車椅子などからベッドへ移動する時のように、ある面に座った状態から、同等あるいは異なる高さの他の座面へと移動すること。	行っている	↑	
		行っていない	↓	
		3	座位での乗り移りは行っていないが、座位(端座位)の保持を行っている。	
座位(端座位)の保持	ベッド等に、背もたれもなく“つかまらない”で、安定して座っていること。(端座位)	行っている	↑	
		行っていない	↓	
		2	座位(端座位)の保持は行っていないが、寝返りを行っている。	
寝返り	寝返りをする事(つかまらず)・つかまらないに関わらず)。	行っている	↑	
		行っていない	↓	
		1	寝返りを行っていない。	

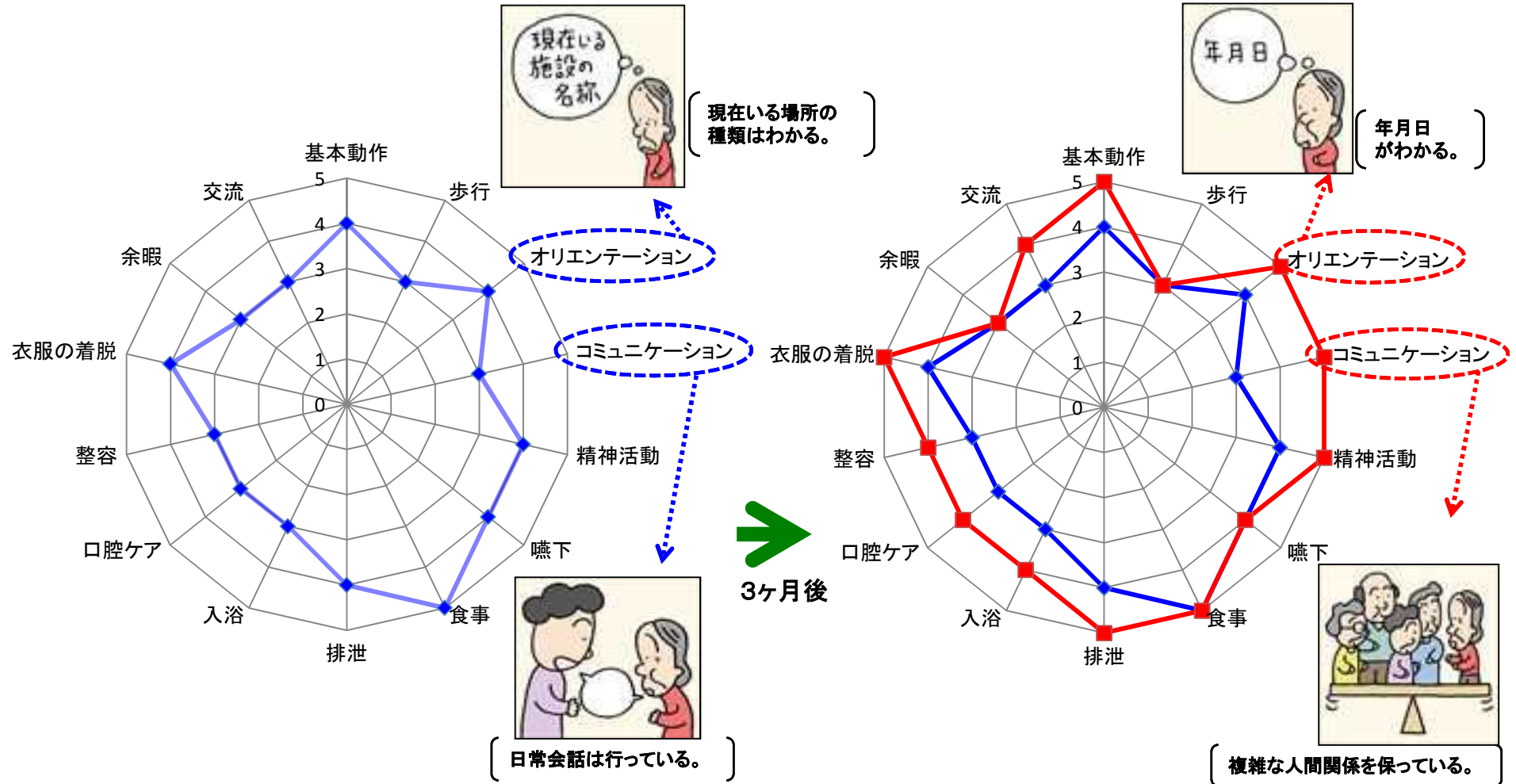


「行っていること」のステージを選び、その番号を記録

【79歳／男性】

主な病歴：脳梗塞
パーキンソン症候群
乳癌の術後

要介護度2
障害自立度：B1
認知症自立度：Ⅱb



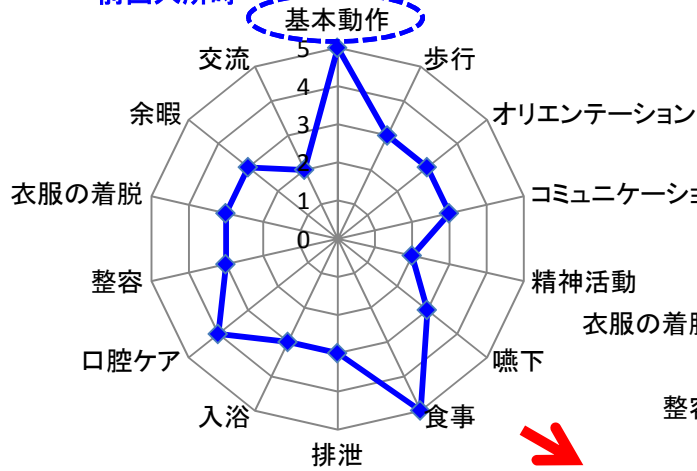
認知症短期集中リハビリテーション等の実施により
認知機能(コミュニケーション等)が改善 ⇒ 在宅復帰

【66歳／女性】

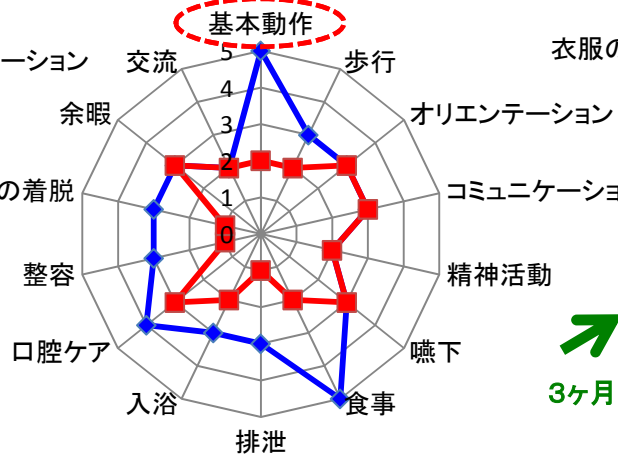
主な病歴：認知症／糖尿病

要介護度3
障害自立度：B1
認知症自立度：Ⅲb

前回入所時



入院後、再入所時



再入所後3ヶ月



【基本動作】



両足での立位の保持

一週間の入院で機能低下



寝返りは行っている。



座位での乗り移りは行っている。


【ケア内容】

- (医師) : 投薬コントロール等の医学管理
- (リハビリ専門職) : 安全に配慮しつつ、歩行訓練の実施
- (看護・介護) : 昼夜のメリハリをつけ、夜間睡眠を習慣付ける
- (栄養士) : 口から食事が取れるよう、食事形態を検討し心身機能を回復

一週間の入院により機能が低下

⇒ 老健施設に再入所、**多職種協働によるリハとケアで改善**、在宅復帰を目指す

社会参加:余暇

		ステージ	状態	状態のイメージ
		5	施設や家を1日以上離れる外出または旅行をしている。	
旅行	旅行に行く（家および施設を1日以上離れる、施設から家への一時帰宅を除く）。	している	↑	
		していない	↓	
		4	旅行はしていないが、個人による趣味活動はしている。	
個人の趣味活動の実施	個人による趣味活動の実施。	している	↑	
		していない	↓	
		3	屋外で行うような個人的趣味活動はしていないが、屋内でする程度のことはしている。	
レクリエーション	集団での体操などの集団レクリエーションへの参加。	している	↑	
		していない	↓	
		2	集団レクリエーションへは参加していないが、一人でテレビを楽しんでいる。	
テレビ	施設内や家でテレビを見る。	している	↑	
		していない	↓	
		1	テレビを見たり、ラジオを聴いていない。	

【ステージ5の判断】
施設からの一時帰宅ではなく、ふだんから施設や家を1日以上離れる外出や旅行を自分でやっている場合は、ステージ5と判断する。






【ステージ4の判断】
ふだんから施設や家を1日以上離れる外出や旅行を自分でやっていないけれど、屋外で行うような趣味活動を自分でしている場合が該当する。転倒等の危険があるため、趣味活動の際に支援や介助を受けている場合でも、自分の意思でしている場合は、ステージ4と判断する。

【ステージ3の判断】
ステージ3は、ふだんから屋外で行うような趣味活動を自分でしていないけれど、施設内で行う集団体操など、屋内で行う集団でのレクリエーションに自ら参加する程度のことにはしている場合が該当する。

【ステージ2の判断】
施設内で行う集団体操など、屋内で行う集団でのレクリエーションに自ら参加することは、ふだんから行ってはいないけれども、施設内や家でひとりでテレビを楽しむことはしている場合は、ステージ2と判断する。

【ステージ1の判断】
ふだんから施設内や家でひとりでテレビを楽しむことをしない場合で、テレビを見たり、ラジオを聴いて楽しむことをしていない、出来ない場合には、ステージ1と判断する。

社会参加: 社会交流

		ステージ	状態	状態のイメージ
		5	情報伝達手段を用いて交流を行っている。	
通信機器を用いての交流	電話を掛けた(e-mail、手紙等含む。相手から掛かってくるのは除く)。	行っている	↑	
		行っていない	↓	
		4	通信機器を用いて自ら連絡を取ることは行っていないが、援助があっての外出はしている。	
外出	施設外に外出した(親族・知人を訪ねる目的で)。	している	↑	
		していない	↓	
		3	外出はしていないが、親族・友人の訪問を受け会話している。	
友人との会話	職員や家族以外の友人・知人と会話した。	している	↑	
		していない	↓	
		2	近所づきあいはしていないが、施設利用者や家族と会話している。	
身近な人との会話	施設職員や家族などと会話した。	している	↑	
		していない	↓	
		1	会話がな、していない、できない。	

【ステージ5の判断】
 ふだんから電話をかけたり、手紙やメールなどの情報伝達手段を用いて交流を自分で行なっている場合は、ステージ5と判断する。

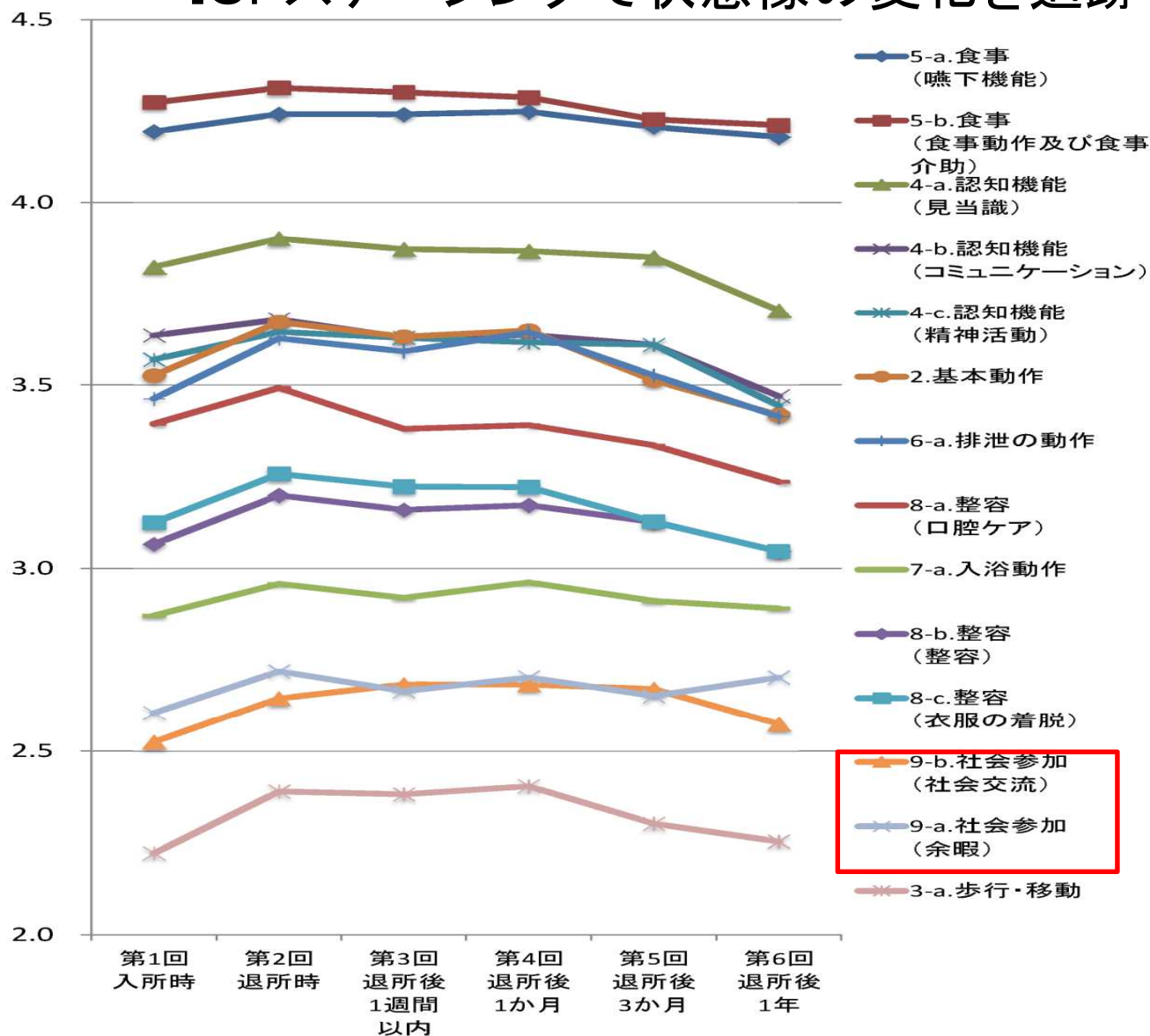
【ステージ4の判断】
 ふだんから電話をかけたり、手紙やメールなどの情報伝達手段を用いて交流を自分で行っていないけれど、親族・知人等を訪ねる目的で外出している場合が該当する。転倒等の危険があるため、外出の際に支援や介助を受けている場合でも、自分の意思で外出している場合は、ステージ4と判断する。

【ステージ3の判断】
 ステージ3は、ふだんから外出はしていないけれど、施設職員や家族以外の親族・友人・知人の訪問を受け、会話している場合が該当する。

【ステージ2の判断】
 施設職員や家族以外の親族・友人・知人の訪問を受け、会話することは、ふだんから行っていないけれども、同じ施設の入所者や職員、家族との会話はしている場合は、ステージ2と判断する。

【ステージ1の判断】
 ふだんから同じ施設の入所者や職員、家族と会話することを行っていない場合で、会話などの社会交流をしていない、出来ない場合には、ステージ1と判断する。

老健施設入所時から、退所の1年後まで、 ICFステージングで状態像の変化を追跡



※各調査時点における平均値。各項目および各回ごとにサンプル数が異なるためn数は記載していない

老健施設入所時から、退所の1年後まで、
ICFステージングで状態像の変化を追跡した結果

- いずれの指標においても、利用者の機能は入所中大幅に改善した。その後、退所後3か月後までは状態が維持されているものの、退所からおよそ1年後には、低下傾向がみられた。
- 社会参加については、在宅復帰した高齢者においては、比較的長い間保たれていることが分かった。

ICFステージング の有用性

1. 良くなったか悪くなったか、小さな変化もキャッチできる。 → **ケアの質の向上につながる。**
2. 医療と介護の両方の場で使える **共通言語になる。**
3. **数字とイラスト**で表現しているなので、在宅でも使えるし、外国でも使える。
4. 公益社団法人の知的財産として学術論文¹⁾²⁾があり、裏付けがしっかりしている。

1) 大河内二郎、高椋清、東憲太郎、折茂賢一郎、本間達也、西脇恵子、安藤繁: 要介護高齢者における余暇および社会交流ステージ分類の開発, 日本老健医学会雑誌 第51巻第6号, 2014.11
2) Okochi et.al.: Staging of mobility, transfer and walking functions of elderly persons based on the codes of the International Classification of Functioning, Disability and Health, BMC Geriatrics 2013, 13:16